

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等ディサービス リズム		公表日		R8 年 1月 16 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	広くスペースを確保するため、今年度は家具の配置換えやテレビの壁掛け化などを行った。	日により定員を超えてしまう日があるため、利用日の分散や事業所移転などを検討していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		職員の目が届かないことのないよう、適切な専門職員数を配置している	安全面に考慮し、外出時の職員数を多めに配置することを検討している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		必要に応じてバリアフリー化を検討していく	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日清掃を行い、危険がないかチェックしている。	現在清掃は職員が行っているが、活動の一環として清掃を取り入れていくことを検討している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウンできる部屋や療養室を設定している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		PDCAサイクルに全てのスタッフが参画できるようにしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者の意向等を把握し、業務改善の必要があれば改善していく。日常的に保護者が話しやすい関係作りを心がけている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員の意見を求め、可能な限り改善できるように努めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現在外部評価は行っていないが、必要に応じて行う。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		職員の希望により自由に研修等を受講できる環境にしている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		適切に支援プログラムを作成している。	具体的なプログラムは保護者にのみ公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等ディサービス計画を作成しているか。	○		子どもと保護者、双方のニーズを拾い、適切に計画を作成している。	セルフプランもしっかりと確認していく。	
	13	放課後等ディサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員の意見、理解を共有し検討している。		
	14	放課後等ディサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員で共有し、適切に支援が行われている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		適切に確認している。	インフォーマルなアセスメントを多用しがちなため、フォーマルなアセスメントも積極的に活用していく。	
	16	放課後等ディサービス計画には、放課後等ディサービスガイドラインの「放課後等ディサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		適切に設定している。	支援内容がマニュアル化してしまわないよう、社会資源の情報や地域の活動など情報収集を積極的に行い、活用していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		チームで行っている。	職員数が少ないため、常に同じチームとなっていしまっている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		社会に出る発達児をたてながプログラムを工夫している。特に本年度は労働による金銭のやり取りを体験できるプログラムを導入した。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		集団と個別それぞれの支援を計画している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援内容を確認し、チームで連携をとっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後は職員で共有する時間が取れないため、翌日の打ち合わせ時に前日の内容の共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		問題なく行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングを行い、必要に応じて計画の変更・見直しを行う。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		4つの基本活動を念頭に組み合わせて支援を計画・実行している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		可能な限り複数の選択肢を用意し、自己選択・自己決定をうながしている。	選択肢のない完全な自己決定もできるよう支援していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		常に子どもの状況を最も理解している者が出席できるよう、調整している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		様々な機関と連携できるようにしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校とは適時連絡を取り合い、それぞれの環境での様子や支援内容など共有している。	支援内容を連続させ、発達・成長できるよう更なる連携を図っていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	以前（又は現在）利用している施設がある場合は情報共有を行っている。	就学前以後以降に利用を開始する児童が多く、未就学児を対象とする施設と連携をとる機会が現状はあまりない。就学時にスムーズに利用できるよう、情報提供していきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		現在障害福祉事業所利用へと移行した児童はまだいないが、今後卒業時には情報提供をサポートしていく予定である。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		必要や希望があれば実施していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の公園での交流や、利用者のきょうだい児などと積極的に交流している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		現在は参加できていないが、今後人員に余裕があれば参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		デイでの子どもの過ごし方や日々の様子など、会議以外でも情報共有し相互理解を深めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家族様に事業所に来てもらい、事業所での対応、過ごし方を見てもらえるようにしている。	研修の機会は設けていないが、研修情報の提供等をしていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用契約時に説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		日頃から子ども、家族様の意見を尊重できるよう心掛けているが、特に支援計画作成時には丁寧に聞き取りを行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		適切に説明を行い、同意を得ている。押しつけにならないよう、計画の修正も可能であることを伝えている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族様に困りごとがあれば都度相談にのっている。しっかりと傾聴し、内容によってはアドバイズを行う。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		スポーツの観戦やBBQなど、家族で参加できるイベントを実施している。家族様の負担にならないよう、参加必須とはしていない。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情について、対応の体制を整備し、利用者・保護者に周知している	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		公表情報としてHP、SNSでの活動報告は行っていないが、個人SNSで予定の確認や活動報告を行っている。	今後要望があればHPやSNSでの活動報告もしていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報に十分注意している	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		利用者・保護者との意思疎通や情報伝達に配慮している。絵カードや文字盤など、意思表示ツールも利用している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		行事等は開催していないが、近隣住民の庭掃除や野菜のシェア等をおこなっている。また地域のお年寄りの憩いの場の提供を行っている。	可能であれば地域住民とのイベントも計画していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		緊急対応・防犯・感染症対応マニュアルを策定し周知している。訓練も実施している。	緊急対応・防犯・感染症対応マニュアルを策定し、スタッフ・保護者に周知を徹底する
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難やその他必要な訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		重度のアレルギーのある子どもはいないため医師の指示書はないが、家庭からの指示通りに実施している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全管理を徹底して行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			取り組み内容に関しては広報誌などを通して周知を徹底していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例集を作成し共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○	虐待防止のため、適切な対応をしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○		身体拘束を行う予定はないが、どのような状況で身体拘束の必要性が出てくるのかを予め想定しておき、ご家族様とも意見の交換や協議を行っていく。